【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】令和4年12月23日(2022.12.23)

【公開番号】特開2021-96543(P2021-96543A)
【公開日】令和3年6月24日(2021.6.24)
【年通号数】公開・登録公報2021-028
【出願番号】特願2019-226062(P2019-226062)
【国際特許分類】
Ｇ０６Ｖ 30/14(2022.01)
Ｇ０６Ｖ 30/413(2022.01)
Ｇ０６Ｔ 7/60(2017.01)
【ＦＩ】
Ｇ０６Ｋ 9/20 ３４０Ｊ
Ｇ０６Ｋ 9/20 ３４０Ｌ
Ｇ０６Ｔ 7/60 ２００Ｋ

【手続補正書】
【提出日】令和4年12月15日(2022.12.15)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
表を含む画像を取得する取得手段と、
前記取得された画像から、表の罫線の候補となる直線を検出する検出手段と、
前記検出された直線同士の各交点について、当該交点から罫線が延びる方向を特定する罫線方向特定手段と、
前記特定手段により特定された罫線が延びる方向を用いて、前記画像に含まれる表の領域を特定する表領域特定手段と、
を備えることを特徴とする情報処理装置。
【請求項２】
前記表領域特定手段は、前記罫線方向特定手段により特定された罫線が延びる方向に基づき特定される、表の四隅を形成する交点に基づき、表領域を特定することを特徴とする請求項１に記載の情報処理装置。
【請求項３】
前記交点のうち、前記罫線方向特定手段により特定された罫線が延びる方向に基づき、表の左上および右上の角を形成する交点を特定する角点特定手段と、
前記角点特定手段により特定された角点から形成される辺の対辺となる辺を特定する対辺特定手段と、
を備え、
前記表領域特定手段は、前記角点特定手段により特定された角点から形成される辺と、前記対辺特定手段により特定された対辺とに基づき特定される領域を表領域として特定することを特徴とする請求項１または２に記載の情報処理装置。
【請求項４】
前記交点のうち、前記罫線方向特定手段により特定された罫線が延びる方向に基づき、表の左下および右下の角を形成する交点を特定する角点特定手段と、
前記角点特定手段により特定された角点から形成される辺の対辺となる辺を特定する対

辺特定手段と、
を備え、
前記表領域特定手段は、前記角点特定手段により特定された角点に基づき特定される辺と、前記対辺特定手段により特定された対辺と基づき特定される領域を表領域として特定することを特徴とする請求項１または２に記載の情報処理装置。
【請求項５】
前記対辺特定手段は、前記角点特定手段により特定された角点に基づき特定される辺と並行な辺であって、表の四隅を形成する交点に基づき特定される辺を、対辺として特定することを特徴とする請求項３または４に記載の情報処理装置。
【請求項６】
前記対辺特定手段は、前記角点特定手段により特定された角点に基づき特定される辺と並行な辺であって、外側に向かって延びる罫線がある交点を含む辺を、対辺として特定することを特徴とする請求項３乃至５のいずれか１項に記載の情報処理装置。
【請求項７】
前記表領域特定手段により特定された表領域に含まれる交点の罫線が延びる方向に基づき、当該表領域のセルを特定する特定手段をさらに備えることを特徴とする請求項１乃至６のいずれか１項に記載の情報処理装置。
【請求項８】
情報処理装置の取得手段が、表を含む画像を取得する取得工程と、
前記情報処理装置の検出手段が、前記取得された画像から、表の罫線の候補となる直線を検出する検出工程と、
前記情報処理装置の罫線方向特定手段が、前記検出された直線同士の各交点について、当該交点から罫線が延びる方向を特定する罫線方向特定工程と、
前記情報処理装置の表領域特定手段が、前記特定工程により特定された罫線が延びる方向を用いて、前記画像に含まれる表の領域を特定する表領域特定工程と、
を備えることを特徴とする情報処理方法。
【請求項９】
コンピュータを、請求項１乃至７のいずれか１項に記載の情報処理装置の各手段として機能させるためのプログラム。